

4月C P予測は目下480～500ドル 極東は売り手市場 ～3月前半の国際L Pガス市場～

3月上旬の国際L Pガス市場は、北半球の需要期終了前の手仕舞い状況がみられる一方で、O P E Cの原油減産の着実な実施による中東産ガス国の供給ショートが一段と表面化し市況軟化機運に乏しい展開が続いた。更に、米国メキシコ湾岸(U S G C)は2月初めから再三の濃霧が発生、輸出量が低下した。これが3月半ばから4月前半の極東市場のプロパン入着を減少させ売り手市場化が進んだ。これを反映して日本の元売各社の4月C P予測も現在のところ季節的下げを窺わせるものではなく、3月C P横ばいないしは微落となっている。以下、個別市場の動向をみていく。

1. 中東C P先物市場

3月第2週末の市況は、プロパンが470ドル台前半、プロパン・ブタンの市況格差からみたブタンは約20ドル高の490ドル台前半となっている。2月最終週段階と比べると、プロパンが20数ドルの上げ、ブタンが25ドルの上げとなっている。この上げをもたらしたのは中東産ガス国、とりわけサウジ、U A Eの原油減産だ。サウジは2月の原油生産量は1,009万バレル/日どころと1月の1,020万バレル/日から21万バレル、11月の1,102万バレル/日比93万バレルも減産された。U A Eも同じく11月比では20万バレルの減産となっている。3月にはサウジは980万バレル/日とも伝えられる。この大幅な減産が随伴ガス(N G L)の減産に直結、L Pガスの供給減につながっている。この結果、中東産ガス国のスポット販は極めて少なくなっている。また、4月のターム玉積みのアクセプタンスもノミネーション比で数日～1週間程度の遅れが生じている。在庫にゆとりがないのだ。ただし、負積みにまでは至っていない。L Pガス需給タイト化による市況上昇に加えて、原油市況がO P E C・カナダ・イラン・ベネズエラ減産で直近58ドル/バレル台まで上げていることもL Pガス市況高値をもたらしている。第3週前半の中東F O B市況はプロパン485ドル前後、ブタン500ドル前後となっている。

2. 極東C F R市場

日韓は総じて在庫高。日本の元売も期末の高値在庫保持を避けてスポット手当ては先延ばしにしていた。2月半ばまではプロパンは470～490ドルのレンジで動いていたが(ブタンは520ドル前後の高値—後述)、3月入りとともに500ドルを突破することも多くなった。3月第2週はプロパン490～505ドル、ブタン500～530ドルへと高騰した。プロパン上げの最大の要因は、U S G Cが2月初めから数度の濃霧に見舞われ、プロパンの出荷量が大幅に減少したことにある。3月～4月半ばの極東入着の米国カーゴが大幅に減少することが明らかになった。2月には「C Pプラス10ドル以下」での成約もみられたC F R市況だが、現在では「C Pプラス20ドル台の後半」での成約すらも成立しない売り手市場となっている。ブタンについては、2月中からU S G C出し・極東向けカーゴがわずかしかなく、多くが北西ヨーロッパ向けとなっていた。しかも、スエズ以東市場では中国華南やインド、インドネシアなどの中東のプロパン・ブタン混載カーゴの買いが多く、インドネシアの国営石油プルタミナやインド勢の購入テンダーも出され、これらとターム供給契約を締結しているトレーダーもブタン買いに奔走した。

ブタン付きカーゴの市況はプロパンを30ドルも上回る唱え値となっている。インドや東南アジア諸国は極東3カ国のようにLPガス需要に季節性が強くないことから、数年前までの「シーズン終了によるCP下げ」という期待は薄らいでいる。

3. 米国MB市場

モントベルビュー（MB）市況は、3月第1週でプロパンが350ドルを挟んだ展開、ブタンは350ドル台後半での値動きとなっている。2月下旬に比べて、それぞれ10ドル、40ドルの下げとなっている。ただMB市況は特にブタンで原油相場に連動しやすいため、2月初めから3月半ばにかけての数回の濃霧の発生はUSGCからのプロパンの輸出出荷量を極めて低水準とした。2月第1週～3月第2週のUSGCでのプロパン輸出货量は次のとおり（単位・千ト/日）。

2月第1週 52 第2週 68 第3週 55 第4週 56 第5週 68

3月第1週 84

3月になってようやく濃霧の影響が解消された形となったが、まだ予断を許さない。米国も波状的な寒波の襲来により、総じて気温は高かったものの最近4週間のプロパン需要は前年同期比12.4%増と大幅に伸びた。これを受けてプロパン在庫がもっと減少してもよかったのだが、上記輸出の低調さが在庫減を抑制した。3月8日現在の全米プロパン在庫は404万トで前年比129.1%の高水準となっている。原油高要因がなければ、MB市況は一段安となっていたところだ。

4. 原油市況

3月1～12日のWTI市況は平均56.45ドル/バレル。2月平均の55.11ドルを1.34ドル上回って推移中。その後WTIは58.61ドル（14日）まで上げている。OPECの減産が3月も順調に行われていること、ベネズエラの生産量が93～95万バレル/日まで落ち込んでいることが伝えられたことなどを受けたもの。

同期間のアラビアン・ライトの平均市況は66.91ドル。これは2月の65.32ドル比1.59ドル高。4月CPの対アラビアン・ライト熱量比率90%前後で収まると仮定すると、4月CPは「プロパン480ドル・ブタン490ドル」ということになる。しかし、上記の「プロパン・ブタン価格差30ドル」を前提とすると、ブタンCPは510ドルとなる。

5. スポットフレート

2月には25～26ドル/トまで下げていたAG（アラビア湾）～JPN（日本）のスポットフレートは、3月第3週末30.5ドルまで上げた。また2月には56ドルとなっていたUSGC～JPNのスポットフレートは68ドルまで上げている。極東とMBのプロパン市況の格差が開いたことで、船がUSGCに集まったが濃霧で滞船を余儀なくされ、これがフレート・コストを上げた。USGCに船が集まった分、4月中東積みの余剰船が解消された。また、インドでの2港揚げ船のチャーターも船腹需給をタイト化させた。

（記事：山内）